

教員・学生による推薦図書

※推薦図書は図書館で貸出できます。

教員〈高松〉

日本語のために (池澤夏樹=個人編集 日本文学全集 30)

▶池澤 夏樹 (編) (河出書房新社)

日本は単一民族、単一文化の国だという(そう思いたがる)人たちがいるが、この本を読むと、それはひどい間違いだということがよくわかる。我々が当たり前に使っている「日本語」が、どれほど複雑で多様なものが流れ込み、変容を続けて出来たものであるか、そして今でも豊かな派生物を生み続けているかということ、強烈な説得力で見せてくれる傑作アンソロジー。池澤夏樹は、ちょっと信じられないような読書量(それもしっかりと読み込まれたもの)の人で、作家としてはそれが時にはプラス、時にはマイナスに働いているように感じるが、この本には彼の良いところが十分に発揮されていると思う。

一般教育科教員 高橋 宏明

ヨーコさんの“言葉”

▶佐野 洋子 (著) (講談社)

著者は絵本「100万回生きたねこ」などで有名な絵本作家です。ある日、テレビをぼんやり見ていたらおもしろい朗読が聞こえてきたので、思わずテレビに釘付けになってしまいました。それが、この本の元になった「ヨーコさんの“言葉”」というEテレの5分間の番組でした。この本は脱力系(?)のエッセー集なので、人生に疲れたときに読むと癒やされること間違いなしです。忙しくて本を借りに行く時間がないという人は、とりあえず動画で楽しんでみてください。http://www3.nhk.or.jp/d-station/program/yokowords/

機械工学科教員 橋本 良夫

超初心者のためのサイバーセキュリティ入門 文春新書

▶齋藤ウィリアム浩幸 (著) (文藝春秋)

サイバーセキュリティへの関心が高まっています。本書は昨年の秋に発行され、最近の事例を紹介して説明しており入門書として読みやすいと思います。前半は情報セキュリティに関する脅威を紹介し、後半は対策を具体的にまとめてあります。「空き巣はSNSで侵入先の世帯を選ぶ」、「過去のSNS投稿で就職の内定が取り消される」など、我々がインターネットのサービスを利用するうえで注意すべき点が多く取り上げられています。

電気情報工学科教員 重田 和弘

知られざる鉄の科学

▶斎藤 勝裕 (著) (SBクリエイティブ株式会社)

人類にとって最も身近な材料である「鉄」の歴史、性質、化学をカラフルな図、写真、イラストを多用しながら易しく解説した新書サイズの書籍です。「重い原子は鉄から生まれた」「地球は鉄の惑星だった」「折れず・曲がらず・切れる日本刀の秘密」といった感じで難解な数式や表現は使わずに、書籍内キャラクターである「鉄代(女の子)」と「FE-26(ロボット)」が鉄に関する様々な科学を懇切丁寧にナビゲートしてくれます。

機械電子工学科教員 相馬 岳

謎解き・津波と波浪の物理

▶保坂 直紀 (著) (講談社ブルーバックス)

大災害といえるレベルの津波はそう頻繁に発生しないため馴染みがありませんが、南海トラフ巨大地震の発生に備えるべく、海岸工学の分野でも最低限の知識を持つべきだと思い本書を紹介いたします。本書は、津波に加え海岸で一般的に見られる波(風波)についての特性や発生機構を分かり易く示しています。海岸工学は数学の知識を駆使しますが、本書は全く数式が使われていません!(もちろん写真や図面はあります)教養を身に付ける為の読み物として手に取ってみてください。

建設環境工学科教員 柳川 竜一

教員〈詫間〉

心が洗われる ブッダの言葉

▶リベラル社 (編) (星雲社)

心が疲れたとき、自分の生き方を確認したい時、この本を読むことをお勧めします。読み易く、分かり易く書かれています。心が軽くなります。自分の心の持ち方、人生の荒波にどう向き合えばよいのか大きな視点で教えてくれます。今出来ることを誠実に、一生懸命に努力すれば実現できるように感じました。

元一般教育科教員 水野知津子

水は答えを知っている

▶江本 勝 (著) (サンマーク出版)

10数年前に出会った本です。水(氷)の結晶の写真が納められた写真集的なものになっています。水の結晶というと雪の結晶を思い浮かべます。そのような写真もありますが、全く違うものあり、実に様々な結晶があります。ワープロで言葉を書いてコップに貼った水の結晶、書く言葉によって形が変わります。水に音楽を聴かせると曲によって形が違います。水が心を持っていると思わせられます。続編の②もあります。

通信ネットワーク工学科教員 真鍋 克也

図解量子論がみるみるわかる本 愛蔵版

▶佐藤 勝彦 (著) (PHP 研究所)

今の時代、ぶらりコンビニに寄ると、難しい話題をきわめて平易に解説した書籍が複数種販売されているから驚きである。この本は量子論の話題を取り扱っている。ノーベル賞との関係に始まり、難しい数式の列挙に終始せず、重要人物の発言や紹介、イラストを多用した解説によって、普段我々が感じる事の無いミクロな世界を極めて丁寧に示している。

電子システム工学科教員 杉本 大志

原発労働者

▶寺尾 紗穂 (著) (講談社)

大学生の頃、「闇に消される原発被曝者」樋口健二著(三一書房)を読んだ時に感じた、恐怖、不安、危うさ等が、思い出されました。こういう事もある、と言う事を知る事は、大事だと思います。情報過多の時代、より良いメディアリテラシー、ネットリテラシーを身に付けるように努力したいです。

情報工学科教員 河田 純

学生〈高松〉

科学の世紀を開いた人々

▶竹内 均 (編) (ニュートンプレス)

この本は今回の化学、後期学年末試験において、試験時間内にノーベル賞受賞についての小論文を書けという問題できちんとノーベル賞受賞者についてかけるようにするために読んだ本です。この本に出でくる多くの科学者の中で僕が特に興味を持ったのが湯川秀樹さんでした。彼は今でこそ日本人として最初のノーベル賞を受けた、「中間子」の存在を予言した人として知られていますが、幼いころは一つのことをやりだすとそれに関する本を全部集めてしまい、何度も引越しをしなければならなかったりやはり頭の良い人間は小さいころからすごいのかと思いました。湯川秀樹さん以外にもたくさん科学者の生涯を知ることができるのでぜひ読んでみてください。

機械工学科2年 小田 創

デュララ!!

▶ 成田 良悟 (著) (電撃文庫)

僕は、このライトノベルを推薦します。なぜなら、この小説は、群像劇、つまり様々な人物の視点で描かれているからです。主人公はデュラハンセルティですが、他の池袋に住む人達も、主人公と同じくらい活躍しているので、その人物の感情を理解しやすいです。異能力とかは出ないし、現実にはないけれど、ちょっとだけありそうなところが一番いいところだと思います。

建設環境工学科 2年 岩佐 知哉

君の臍臓を食べたい

▶ 住野 よる (著) (双葉社)

僕のオススメの本は少し前話題になった「君の臍臓を食べたい」と言う、題名からいかにも怪しそうな感じが漂う小説です。もうすでにどなたかが紹介されているかもしれませんが、僕の方からも紹介させていただきます。あらすじは書きません。ですが、この小説は活字が苦手な僕でも次のページをめくるのが、楽しく、そして、悲しく、切なくて何度も涙しました。とにかく、題名とのギャップが大きな小説です。図書館にあるので、是非借りて下さい。また2017年7月28日(金)に「浜辺美波、北村匠海、大友花恋、矢本悠馬、桜田通、森下大地、上地雄輔、北川景子、小栗旬」のキャストで映画公開されるようなので、映画をみる前に原作を読まれてみては?

機械電子工学科 3年 古市 渉

ただのナマズと思うなよ

▶ 椎名 誠 (著) (文藝春秋)

椎名誠さんの著書で読んだことがあるのは、実は「岳物語」しかなかった。岳物語は、椎名さんの息子さんの岳君の成長がつづられたエッセイだ。エッセイというのはたいがいそうなんだろうが、著者の思ったことが率直で自由な書かれ方をしているので、共感するところも多く、好きだ。そんな僕が前回ブックハンティングに行った際、エッセイ本を探していて偶然目に留まったのがこの本だった。著名からすでに自由な感じが漂っている(笑)サンマの話、道路標識の話、覆面パトカーの話など、数多くの短編からなっており、文体の碎けた感じと相まって非常に読みやすかった。岳物語を読んだ時もそうだったのだが、読み終えた後に憧れに似た感情を感じるのが椎名さんのエッセイだ。椎名さんのエッセイを読んでいると、いろいろなことに挑戦してみたくなる。いろんなことに手を出してしまう僕の性格は、少なからずここから影響を受けているのではなからうかと今になると思う。僕のようなケースは珍しいのかもしれないが、読めば少し気持ちが上向く本なので、ぜひ少しだけでも読んでほしい。

機械工学科 5年 富田 想

ディズニー魔法の会計

▶ 秦 美佐子 (著) (KADOKAWA/中経出版)

この本は図書館の経済関連の書庫にあります。本を探るとき題名が金色だったので目につき、この本を手に取り今紹介することになりました。内容はその通り金融についてなのですが、素人の僕でも楽しく読むことができました。特に、登場人物が「美女と野獣」に例えられているので、ディズニー好きの人には楽しんでもらえるでしょう。読んでみてなるほどと思ったことは、魔法の国が多大な費用をかけて運営されていることです。これらのことが本にかかっているの、ぜひ頭をやわらかくして読んでみてください。

研究生 今村 元紀

学生〈読問〉

羅生門

▶ 芥川 龍之介 (著) (講談社ほか)

この本は、少し話が複雑ですが、読めば読むほど話に引き込まれていく物語です。

主人公は下人という人で、その下人が究極の二択をせまられ、1つ目が「死ぬか」2つ目が「追剥になるか」でとても気になるストーリーになっています。ぜひ読んでみて下さい。

また、1人の男が悩みに悩んで決断するシーンも魅力でもあります。初

めて読む人でもすぐにこのストーリーにひかれて気付くと終わっていた、なんてこともあります。

羅生門以外にも、芥川さんはおもしろい本をいくつも書いているのでそれを読んでほしいと思います。

通信ネットワーク工学科 2年 鈴木 悠斗

2WEEKSイカレタ愛

▶ 野中 美里 (著) (星海社)

異能の力を持った、2人の恋愛ストーリーです。恋愛としても、バトル物推理系としても、おもしろかったです。主人公、上代雪介やヒロインの黒戸サツキの、恋愛話や、世界観など色々、読む人によって注目する所は様々あると思いますが、私は世界観が好きです。

初めは、絵につられて読みはじめましたが、異能系や、宇宙がでてくるところなど、どんどんはまっていきました。私のように、基本アニメやマンガを読んでも楽しく読める作品だと思いますので、ぜひ手にとってみてください。

最後に一言、皆さんは、もし特別な力をもっていて、もしその仲間が見つかったとして、皆が2週間の命だったら、どうしますか。

情報工学科 2年 濱田 悠璃

これからはじめるプログラミング基礎の基礎 改訂新版

▶ 谷尻 かおり (著) (技術評論社)

僕はこの本を情報科で出された課題のヒントにするために借りました。この本に書かれているプログラムの解説などはとても分かりやすく、出されていた課題をととてもスムーズに終わらせることが出来ました。プログラム初心者にはとてもオススメの一冊です。また、これから学習するであろう内容も含まれているので情報工学科の学生にはぜひ手に取って欲しいと思います。また、発展的な内容もこの本に書かれていたので高学年の方々にも借りて頂けたらと思います。

情報工学科 2年 小林 敬人

雪のひとひら

▶ ポール・ギャリコ (著)、矢川澄子 (訳) (新潮社)

本作品の主人公は、なんと「雪」なんです。私は、犬や猫が主人公の作品を読んだことがありますが、自然目線で綴られる物語は初めてで、あの時の衝撃は今でも忘れられません。

内容は、私たち人間でたとえると、ごく普通の女性の誕生から死に致るまでの一生ものお話です。また、女性らしく生きていく上で味わうよこび、かなしみ、苦悩のすべてを誇張なく、きわめて純粋にしかも克明にえがききっています。この本を読んでいる時、何度も母のことが思い浮かびあがり、その度に「きっと母はこんな思いでいるんだな。こんな気持ちを抱いているんだな。」と思考を巡らせていました。今の私では、まだ分からない部分もありました。しかし、いつか分かる時がくるかもしれません。その時がきたら、またこの作品を読みたいと思います。純粋で美しい作品なので、皆さんにも読んで頂きたいです。

電子システム工学科 3年 間部帆乃夏

オシムの言葉

▶ 木村 元彦 (著) (集英社)

僕は今回「オシムの言葉」という本を借りました。僕は昔サッカーをしていました。今はやめてしまいましたが、ふとこの本が気になって読んでいました。そこで僕が印象に残ったところを紹介したいと思います。

まずはオシム監督が「1対1をしる」と言い、そこで負けている方の選手に向かって「お前ら、何故助けに行かないんだ!」と怒鳴りつけるシーンがとても印象に残りました。続けて「1対1が何秒も続くような場面はない。漠然とメニューをこなすな、自分でも考えろ」というのですがこの柔軟で独特な発想がオシムの監督としての能力の秘訣なのだと僕は思いました。僕はそれが苦手だったので選手として未熟だったのですが、これがもう少しできていればちょっとは変わったかなと思いました。

次にオシムのとにかく選手を走らせるスタイルが印象に残りました。これで選手たちに後々になって自信をつけさせ、粘り強さを作り出すというメソッドはサッカーにとって大事なもので僕も感心しました。

今回挙げた印象に残った点は第一章のものです。興味があればこの「オシムの言葉」を手にとって読んでみて下さい。読んでみたらオシムの奇想天外な発想に驚きと感心を禁じえないと思います。

通信ネットワーク工学科 5年 石井 宏武